

島の誇りを胸に 伝統ヤッコ踊り

沖永良部・エイサー部



ヤッコ踊りを取り入れた演舞を披露する沖永良部高校エイサー部の生徒たち

11月3日、岐阜県土岐市の土岐市文化プラザ

島の誇りを全国へ。岐阜県で開かれている全国高校総合文化祭の郷土芸能部門が3日、土岐市で始まり伝承芸能に沖永良部高校エイサー部が出場した。地域伝統のヤッコ踊りを取り入れた演舞を披露。関東や関西から駆けつけた島出身者らが声援を送った。

「セイツ、セイツ」。会場に三線の音色と掛け声が響く。琉球調の音階に合わせ、棒を大きく振り上げるヤッコ踊りが始まった。地元民謡「サイサイ節」や「えらぶ百合の花」に乗せて太鼓を打ち鳴らしながら、舞台を跳ね回った。

七つの舞踊を組み込んだ「踊い継ちいきぬ島ぬ慣れ事」は、生徒が考案。3年の西那穂部長は「島のすてきな文化を見せられてよかった」。稽古に協力してきた出花集落のヤッコ踊り保存会の泉義仁さん(58)も会場で見守り、「地域の踊りが全国の舞台で披露されるのは感慨深い」と喜んだ。

島出身者らでつくる「沖洲会」の会員約10人が東京や兵庫県から来場した。演舞が終わると指笛を鳴らして称賛。和泊町出身で東京沖洲会の野村直功会長(70)「千葉県八千代市」は「はつらつとした動きと笑顔が輝いていた。久しぶりに旧友と一緒に鑑賞して、古里を思い出した」と後輩たちに感謝した。

(出水 柊)